

もんでこい丹生谷

那賀町祭&中野建吉写真展 in 大阪を開催して

十一月六日、大阪市旭区民センターにおいて、もんでこい丹生谷那賀町祭&中野建吉写真展を開催しました。

那賀町と近畿周辺、摂津市の職員、東京、ボランティア等で三百五十人の参加がありました。

古田裕也君が「地元中学生ふるさとを想う」をテーマに発表して下さいました。若者のふるさとを思う気持ちを大切に受け止めてほしいと思います。

ふるさとを想う

上那賀中学校三年 古田裕也

今、那賀町は、急速な高齢化と人口の減少に歯止めがかからず、僕の住む那賀町拝宮地区も限界集落となり、過疎の道をたどっています。現在、拝宮地域では、中学生は僕一人となり、小学生も僕の妹のみとなっていてしまいました。僕と妹が大人になったとき、この拝宮地域はどうなっているだろうと思うときがあります。

この拝宮地域には、県下でも有名な、数百年の歴史を持つ「拝宮農村

舞台」、美しく繊細で幅広い用途で使える「拝宮和紙」、そして秋、紅葉とともに民家の軒下に並ぶ「拝宮干し柿」と、たくさん文化が今に受け継がれてきました。しかし、近年三つの伝統芸能・産業も、作り手の高齢化などで、どれも消滅の危機にあります。

ところが、県や町そして多くの人々の協力により、拝宮農村舞台は平成十六年に復活公演が行われ、拝宮和紙においては、体験型施設として新たなスタートを切りました。

しかし、「拝宮干し柿」は、作り手の減少に加え野生動物の増加という現状から、「せつかく作っても、猿にやられてしまう」と祖母は目に涙を浮かべ言います。すべての那賀町民が那賀町はええところまで住みやすいよと言える日を迎えるまで、行政は全力で支援するべきだと思います。

一方、「拝宮農村舞台」において、今まで受け継いできた伝統を守っていくのは、僕たち地元住民だと思います。文化を継承していくことは、口では簡単に言えますが、実際に



参加して下さった方の感想をお聞きしました

参加されたスタッフからの声

- ・今までの那賀町祭で一番よかった。那賀町が一つになれた。
- ・郷土料理のいたどり、ふぎ、漬物、柚酒等の食材は、一年がかりの準備ではじまった。那賀町を盛り上げるのは、女性の力!
- ・ミュージカルで大きな目標を達成できた。自分の力が出せた。よかったよと声をかけてくれた。
- ・もんでこいの参加者が、バスで一緒に帰りたいという方があってうれしかった。
- ・中学校卒業以来の同級生に会えた方がたくさんあり感動しました。
- ・就職してふるさとへ帰ってきたので町のために頑張ります。
- ・一人一人が参加してやり遂げる感動をもらった。
- ・頑張りを無駄にしないように成果につなげたい。
- ・みんなが主役、一人一人の力が結集した那賀町祭であり、大成功であった。

動に移すと大変なことだということは、観客の減少などを見てもよくわかります。しかし、ここで完全に途絶えさせてしまえば、復活は厳しいものとなるでしょう。拝宮地域の若者もわずか数名となり、その中で一番若い僕が、この先、拝宮農村舞台を守らなければなりません。地域の人々の協力や町の人たちの応援により、この伝統芸能を後世へと伝えていきたいと思えます。

今回の開催にあたりたくさんの方のご協力と、ご支援に心から感謝申し上げます。



五十年ぶりに上那賀の川俣出身の方四人に会えた滋賀県の曾川幸男さんからのメッセージ

「もんでいく丹生谷へ」
 先ずは、原点に戻って故郷の景色を描いて...
 始まりは全て自分自身でしょう。手段が必要ですが、これは望めばあれこれと手を差し伸べていただけやるやうで入手可能でしょう。みんなの思い思いの夢を絡めて、重ねて、束ねていけばきつと相乗効果で叶うでしょう。
 「もんでいく丹生谷へ...」
 サアーみんなで自分自身の「もんでいく」夢に向かって駆け出そう。

12
17(土)

平成23年度 第5回 那賀よしもちつき大会

開会 10時 / 受付 12時30分まで
 閉会 13時

場所:那賀高等学校 中庭

内容

- ・もちつき体験(こどもさんも大歓迎)
- ・先着200名様につきたてのお餅(整理券配付)
- ・先着50名様にお茶券(整理券配付)
- ・フライドポテト、あめ湯の無料配付
- ・バザー(10時30分~)
- ・食育カルタ大会(①11時、②11時30分)



主催 徳島県立那賀高等学校
 共催 那賀町社会福祉協議会 / 那賀高等学校教育振興協議会 / 那賀町ボランティア連絡協議会